



キルギス共和国日本語教師会会報  
第 62 号 2021 年 10 月 5 日発行  
Вестник Ассоциации  
преподавателей  
японского языка  
Кыргызской Республики  
№ 62 от 05.10.2021 г.

## キルギスにおける日本語教育開始 30 周年記念

特集

## 日本語教育国際研究大会

(キルギス日本語教育 30 周年記念国際研究大会)

### キルギス初のネイティブ教師として～伊藤広宣（筑波大学）

◆1991 年 9 月 23 日、私はキルギス民族大学（現キルギス国立総合大学）歴史学部東洋語コースにて、日本語を教え始めました。初めてのグループの学生は 10 人でした。授業は週 5 日、日本から持参した参考書やロシア語教材などを参考にして毎日講義ノートを作成したものでした。

◆当時は市販されている教材はありませんでしたし、黒板に書くチョークも教室も時々見つけれなかったり、コピーサービスの店もなかったり、という中を最初の一年は無我夢中で日本語を教えました。学生たちは、私の話すこと、黒板に書くことすべてを一生懸命勉強しました。



◆思えば、旧ソ連邦から独立宣言したばかりのキルギスが主権国家として様々な分野の専門家を養成する必要に迫られ日本語の専門家養成もその一つだったという時代でした。

◆私は、学生時代にモスクワ大学に 1 年、その後ウラジオストク極東大学に半年留学しました。極東大学で学び始めたころ、キルギス出身の学生と知り合いました。その彼にモスクワ時代のキルギスの友人たちの写真を見せると、なんと学校の同級生や近所の知り合いだったことがわかり、彼とはすっかり仲良くなりました。彼の誘いで私は冬休み 5 日間の予定でキルギスに遊びに行くことにしました。1991 年 1 月末のことです。

◆一足先にキルギスに戻っていた友人に「キルギスの大学が君にとっても興味を持っている」と言われ、大学関係者に会ってみたところ、「是非、日本語を教えるにキルギスに来てほしい」と依頼されたのです。翌日、両親にも誰にも相談せず労働契約書に署名してしまい、あとから大変でしたが、キルギスで就職するため、極東大学の留学を早めに切り上げ、日本に戻って大学を卒業しました。大学の後輩 2 人がキルギスへの留学を希望したので、3 人で一緒に行くことになりました。

◆1991 年 8 月 19 日は私たちのキルギスへの出発の日、ソ連のゴルバチョフ大統領が別荘に軟禁されるという事件が起きました。私たちがそのことを知ったのは新潟空港に向かうタクシーの中でした。しかし私たち 3 人は、キルギスに行くなら今しかない、と躊躇せず日本を出発しました。幸い経由地のハバロフスクでは事件の影響はなく、私たちは翌日、無事にキルギスに着きました。ソ連の 8 月クーデターはあっという間に收拾し、その後 10 日もたたないうちにキルギスはソ連邦からの独立宣言をしました。

◆私はキルギス国立総合大学で 7 年、ビシケク人文大学では 2 期 11 年、アラバエフ記念キルギス国立大学では 12 年、また、キルギス・ロシア教育アカデミーなどでも日本語の教鞭を執っておりました。キルギスの 27 年の間には 2 つの大学をかけもちで何年も教えていたこともありましたが、教え子の中には、今ではキルギス、日本をはじめ諸外国にて日本語に関係する分野で活躍するようになった者も多く、とてもうれしく思っております。

\* \* \* \* \*

「キルギス日本語教育 30 周年記念国際研究大会」8 月 21 日発表要旨・詳しくは 10 月下旬 HP にて公開予定

# ご挨拶

## ～キルギス日本語教育 30 周年記念研究大会開会にあたって～



◆皆様、おはようございます。キルギス日本語教師会の賛助会という立場でご挨拶の機会をいただいた高橋知也です。本日は「キルギスにおける日本語教育開始 30 周年記念日本語教育国際研究大会」に出席

させていただきますり、ありがとうございます。

◆現在、私は、ブルガリアの首都ソフィアにあるソフィア「聖クリメント・オフリドスキ」大学に日本語専門家として国際交流基金によって派遣されています。本日は、ブルガリアから参加しており、こちらの現在の時刻は朝の 7 時 14 分です。

◆キルギス共和国の高等教育機関において正式な日本語教育が開始されてから今年でちょうど 30 年を迎えるとのこと、心よりお祝い申し上げます。私の現在の派遣先機関であるソフィア大学は、昨年、2020 年に日本学科の開設から 30 年を迎え、30 周年を記念する行事を開催しました。1989 年のベルリンの壁の崩壊以降、ブルガリアを含む東欧諸国やキルギスを含む旧ソビエト連邦の国々で日本語教育は急速に拡大しました。それらの国々の中でも、キルギスの日本語教育は、日本語教師会が一つの軸となり、キルギス国内の多くの日本語教育機関・日本語教師・日本語学習者にとどまらない関係者を引き込みながら、近隣諸国や日本をはじめとする世界各国の日本語教育関係者に対しても際立った存在感を見せてきたことに特色があるように思います。

◆私がキルギス日本語教師会の現役の会員として活動していたのは、2002 年の 12 月から 2005 年の 7 月にかけてです。当時のビシュケク人文大学に JICA の青年海外協力隊隊員として配属されていました。その頃、キルギスでは首都ビシュケクの 3 つの大学に日本センターを加えた 4 つの機関が主要な日本語教育機関として競い合っていました。中央アジア日本語弁論大会、全 CIS 日本語学生弁論大会にそれぞれの国内予選大会を加えた一年に 4 回の弁論大会、それに、作文コンクールがあって、教師

も学習者もお互いに顔を合わせる機会が多く、どこかの機関でどんな教師が教えていて、どんな学習者が学んでいるのか、といった情報をみんながお互いに把握できているような親密な雰囲気があったと記憶しています。キルギスでは通常の授業に加えていろいろな行事の準備に追われていましたが、忙しいながらも充実した日々を過ごしていたことを思い出します。

◆その後、キルギス日本語教師会に賛助会員という制度が正式に設けられたのは、2011 年のことのようにです。2011 年当時いただいた規約には 8 つの条文がありました。第 1 条には「賛助会員には、キルギス日本語教師会のキルギス共和国における日本語教育普及活動を支援しようとする個人あるいは団体で、教師会普通会员の 1 名以上の推薦があれば、その在住あるいは所在地域ないし国を問わず、だれでも入会できる」とあり、第 8 条に「本規約は 2011 年 3 月 1 日より発効する」とあります。昔の電子メールの記録を読み返して、この規約をいただいたのが、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災のすぐ後だったことを思い起こしました。

◆それ以来、キルギス日本語教師会の最新の情報を定期的に発行される会報を通していただけてきましたし、ときおり短い記事の投稿もさせていただいております。キルギスを再び訪問する機会はなかなか得られませんが、昨年来、各種の行事がオンラインで開催されるようになり、参加させていただき、2002 年当時からの旧知の皆さんと顔を合わせ、また、若い世代の方々のご活躍の様子を拝見して、たいへんうれしく思っております。今日と明日の 2 日間の研究大会が、過去を振り返り、この先の将来への展望を得る、またとない機会となることを期待して、私の挨拶とさせていただきます。

8 月 21 日、30 周年記念研究大会開会にあたり、国際交流基金日本語専門家として現在ブルガリアのソフィア大学で日本語教育に従事されている高橋知也氏がキルギス共和国日本語教師会賛助会（活動支援会）を代表としてご挨拶くださいました。記事はその全文です。

# 私の日本語事始 ～日本語・日本文化知識習得への道～



モルドガジエフ・リスベク

キルギス共和国日本語教師会名誉顧問  
キルギス・日本ビジネス協議会会長  
元駐日キルギス共和国特命全権大使

◆キルギスの教育機関で正規の授業として日本語教育が始まったのは1991年ですから今年は30周年に当たるわけですが、実際に日本語が教えられるようになったのはもう少し早く、1980年代、キルギスがまだ社会主義共和国だった時代です。「ズナーニエ」、日本語で「知識」という名称のキルギス社会主義共和国立の協会、そして、ビシケク第70番学校の夜間コースで日本語が学ばれ始めたのです。

◆どちらのコースも、朝鮮系キルギス人のバク・アレクサンドル先生とユダヤ系キルギス人のアクセンロード・イサーク先生が指導していました。当時はソビエト連邦のグラスノスチとペレストロイカ政策のもと、人々の活動も比較的自由になりさまざまな制限が緩和され始めた頃でした。



◆私が日本に関心を持ったのは、まだ高校生の頃です。  
ロシア語に翻訳された芥川龍之介や安部公房を読みました。  
黒澤明監督の映画も見ました。  
当時は「冷戦時代」でした。  
私たちは「鉄のカーテン」で西と東に引き離されて、  
日本は、私たちにとってはるか遠くの世界でした。

◆1989年、ソビエト軍に入隊し駐屯先のウクライナで2年間の兵役を終えキルギスに戻った私は、アクセンロード先生の日本語コースに申し込みました。先生のもとで3年間日本語を学びました。

◆先生の教え方は非常に明確でわかりやすい授業でした。レッスンは、文法、語彙、漢字、会話の4つのブロックで行われました。最初は、日本語の文法規則がロシア語で説明されるので、なんとなくわかりにくかったのですが、あるとき、授業で先生は、「日本語の文法とキルギス語の文法を比較してごらん下さい」とアドバイスしてくれました。先生はいくつもの言語が話せました。もちろん、キルギス語も。先生のアドバイスに従って、日本語の文法をキルギス語と比較してみた私は、キルギス語と日本語が「兄弟のような言語」であるのに気がつきました。その日から、日本語の勉強がわかりやすくなりました。



アクセンロード先生と筆者



◆当時は教材が不足していたので、なんでも黒板から書き写しました。  
ロシア極東で出版された本を見つけることもありました。  
もちろん、日本語のネイティブスピーカーは一人もいません。  
先生と私たち生徒だけで「生の会話」の練習をしたものです。  
◆当時は日本に行くことに現実味はなく、ましてや日本人と接したり、一緒に仕事をするなど考えてもいませんでした。私たちはただ日本に興味があるから、日本語が好きだから勉強していたのです。

# キルギス共和国における日本語教育の歩みと未来を考える場としての 「キルギス日本語教育 30 周年記念国際研究大会」

研究大会実行委員 ヴォロビヨワ・ガリーナ (PhD)



■「キルギス日本語教育 30 周年記念国際研究大会」開会にあたり、駐キルギス日本国特命全権大使前田茂樹氏と JICA キルギス事務所所長根本直幸氏よりご挨拶いただきました。今年はキルギス日本語教育開 30 周年です。毎年 8 月開催の研究大会を特別な形にしました。

■1 日目は「キルギス共和国における日本語教育の歩み」をテーマにキルギスの日本語教育の歴史と教育事情に関わる発表にしばりました。キルギス日本語教師会の第 2 代会長を務めた私と大学における日本語教育が始まった 1991 年に最初の日本語講師となられた伊藤広宣先生、1989 年に日本語を学び始めたモルドガジエフ・リスベク氏、かつて国際交流基金日本語上級専門家としてキルギスで活動された黒岩幸子先生、JICA ボランティアとして日本語教育に従事された西條結人先生が発表しました。さらにキルギスにおける日本語教育では歴史が一番古いキルギス国立総合大学のドゥイショノフ・ナリーザ先生と中央アジアアメリカ大学のオモロワ・ディナーラ先生による日本語教育史と教育事情などについての興味深い発表を聞くことができました。またキルギスの教育機関卒業生が送ってくれた日本語の知識を生かした活動の様子と先生方への感謝のメッセージのビデオも見ることができました。私は「キルギスの日本語教育～30 年の歩みと人々～」と題して発表しました。その 1 日目の発表では歴史的な写真も多く紹介され、日本語教育に貢献した先生方の名前も聞くこともでき、キルギス日本語教育関係者にとっては思い出を懐かしく振り返る場となりました。

■2 日目は國學院大學の中川千恵子先生による基調講演「学習者の自律を目指した音声指導・学習」が行われ、貴重な指導法をたくさん教えていただきました。日本語教師だけではなく、学習者の自律学習に役立つソフトも紹介していただきました。さらに多くの研究発表と実践報告があり、今回はオンライン形式で実施したので、世界各地（中央アジア、東アジア、東南アジア、東ヨーロッパ、北アメリカと南アメリカ、北アフリカの 9 カ国）から参加してもらえました。

研究大会はキルギス時間の午前 10 時に始まりましたが、そのときブラジルはまだ午前 1 時、真夜中にも関わらずブラジリア大学の上甲アリセ民江先生は「日本語学習者と日本語母話者の雑談におけるインターアクションとラポール構築」という興味深い発表をしてください、質疑応答もとても活気がありました。

■東洋大学の平畑奈美先生は「中央アジアでの日本語教育における母話者と非母話者の協働を考える：日本語教師養成の視点から」と題して貴重な統計データを含むとても興味深い発表をしてくださいました。

■カンボジアのクーン・ソチア先生と鬼一三先生はカンボジアの日本語教育事情を「コロナ禍中のカンボジアにおけるオンライン授業の実践報告」と題してご紹介くださり、聴衆はほとんど知られていなかった情報に触れることができました。

■モスクワ市立大学のミズグリナ・マリア先生からは「ロシア語母話話者の聞き取りの特徴と聴解指導における問題点」をテーマに分析結果の報告があり、エジプトのカイロ大学の森田誠亮とマギー・アリ・アブデル・ハディ先生は「カイロ大学におけるビデオ教材を用いた反転授業の実践報告」でキルギスの日本語教師にも役に立つ指導法の紹介をしてくださいました。キルギスからの発表もみんな興味深いものでした。

■実行委員としては、準備に追われながら初めてのオンライン開催で、アジア、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカをつなぐ大規模な研究大会を成功させることができるか心配でした。幸い大きな問題もなく終了してほっとしました。今回は 2 日間で述べ 86 人が参加しました。オンライン形式だったので、もっと多くの教師会の現役会員や旧会員が参加できたはずですが、期待したより参加者が少なくとても残念に思います。

■西半球からブラジルの上甲アリセ民江先生、カナダの東陽子先生が徹夜で研究大会に参加してくださり大変ありがたい気持ちでいっぱいでした。名古屋外国語大学名誉教授の尾崎明人先生、国立国語研究所教授の横山詔一先生、国際交流基金日本語国際センター専任講師の八田直美先生も研究大会に参加して下さって光栄でした。

■最後に、尾崎先生と八田先生からのメッセージをご紹介します。

◎尾崎明人先生：「先の 30 周年記念大会は本当に素晴らしいものでした。キルギスの日本語教師会は規模がとても小さいと思っていましたが、あのような大規模な国際大会をオンラインで開催することができる素晴らしいチームワークと人材に恵まれているのだということがとてもよく分かりました。日本語教育に全力で取り組んでくださる先生方のご努力に感謝の気持ちでいっぱいになりました。」

◎八田直美先生：「素晴らしい研究大会に参加させていただき、ありがとうございます。国際研究大会の名前の通り、多くの国から、有益な研究の成果が共有され、大変勉強になりました。私が参加したのは、第 3 部と中川先生の基調講演でしたが、音声教育から聴解指導、会話研究、対象言語学、教師養成、コロナ禍の日本語教育事情などテーマの幅も広がったのですが、発表者の出身もさまざま、世界の日本語教育、日本研究の多様性が実感できました。」

■今後は若い日本語教師のみなさんがこの研究大会で得た知識を生かして、より活発に日本語教育と研究に取り組み、キルギスにおける日本学・日本語教育研究の明るい未来を築いてくれるよう祈っています。

# 「キルギス日本語教育 30 周年記念国際研究大会」に参加して

Alice T. Joko (ブラジル連邦共和国国立ブラジリア大学)



◆この度は「キルギス日本語教育 30 周年記念国際研究大会」に参加させていただき、キルギス共和国日本語教師会の皆様をはじめ関係者の方々に心からお礼を申し上げます。

◆30周年という大事な節目の大会でキルギス国内をはじめ、日本、ロシア、エジプト、カンボジアの研究者の皆様とオンライン研究発表の場を共有させていただいたことは大きな喜びです。

◆また、私は「話し言葉」の研究をしているため日本語の音声は避けて通れない分野であり、中川千恵子先生の書かれた本はすべて参考にさせていただいていますが、今回図らずも基調講演が中川先生の「学習者の自律を目指した音声指導・学習」で、初めて先生のお話を伺う機会に恵まれたことも幸運でした。

◆開会式におけるご来賓の方々のご挨拶や、キルギス日本語教育界の主導的立場としてご活躍なさってきたヴォロビヨワ・ガリーナ先生、伊藤広宣両先生のご発表からキルギスの日本語教育の歴史、現状、課題などを知ることができました。先駆者の皆様のご尽力、また現在ご活躍されている先生方に敬意を表します。

◆私の国ブラジルは日本とは約 130 年の国交があり、1908 年の正式移住開始から 1973 年の移民船廃止ま

でに 26 万人の日本人がブラジルに移住しました。現在、ブラジルは日本人とその子孫で形成される 200 万以上の世界最大の日系人居住地となっています。また、日本は約 30 年前に入管法改正を行って、日系ブラジル人就労者の受け入れを開始したため、現在日本のブラジル人コミュニティは約 20 万人だと言われています。

◆このように地理的には遠くても、歴史的に日本と深い関りを持っている我が国と、日本との国交成立の歴史も浅く、人間交流もそれほど盛んとはいえない状況にあるキルギスが高等教育機関における日本語教育の面では同じような悩みを抱えていることが分かり、お互いに日本語教育推進に向けて、何らかの形で協力し合えるのではないかと考えてさせられました。例えば、ガリーナ先生には今年 3 月にオンラインで行われたブラジル日本研究国際学会で大変興味深い「漢字の構成上の複雑性の分析」というテーマで研究発表していただきました。このようなご研究の成果は、同じく非漢字圏であるブラジルの日本語学習者にとっても学習の助けになるものと確信しております。

◆最後になりましたが、キルギス共和国日本語教師会の更なるご発展とご活躍をお祈りいたします。また、このような貴重な機会をいただけたのも、ガリーナ先生のお声掛けがあったからです。この場をお借りして心から感謝申し上げます。

## 「日本語人」たちの登場

◆2 日間にわたる大会を企画運営された日本語教師会実行委員のみなさま、ありがとうございます。第 1 日目にキルギスの日本語教育を振り返るご発表と、卒業生によるビデオメッセージ、そして 2 日目に研究発表という内容は、キルギスの日本語教育開始 30 周年記念にふさわしいものだったと思います。

◆ガリーナ先生がご発表の中で、教え子の活躍は教師にとってこの上ない喜びだとおっしゃっていましたが、ビデオメッセージに登場された 9 名の方々は、まさに、先生方の期待に応え、キルギスの日本語教育を礎にご活躍されている方々でした。ビデオをご覧になった方々は、9 名の方々の日本語力の高さにまずはお気づきになったことと思います。

◆大会の基調講演をされた中川先生が、講演に先立ってキルギスの方々の話している音声データを聞いたけれども、発音にそんなに問題がないとお話をされていましたが、本当にそのとおり、ビデオメッセージから流れてくる音声は、違和感のないものでした。

## 関 麻由美 (津田塾大学非常勤講師)

◆そして、日本語を自由に操っているその「日本語人」たちはキルギスや日本だけではなく外国でもご活躍されているのです。日本語という共通語でコミュニケーションできる方たちが世界のどこかにいるというのは、とても嬉しいものです。このことは、反対に、「キルギス(語)人」のことをもっと日本人も知る必要があるし、知らなければフェアじゃないなあという気持ちを私の中に起こさせました。

◆今回の大会は、キルギス応援団(賛助会員)の一員としてまずは私自身もキルギスのことを勉強し、キルギスについて発信していかなければと思う大会でもありました。スローラーナーの私としては、来年の国際大会のときまでには、キリル文字を習得しておこうと思います。



# キルギス日本語教師会の皆さん、 日本語教育開始 30 周年、おめでとうございます！

ウマロヴァ・ムノジャット（ウズベキスタン国立世界言語大学）

2021 年 8 月 21～22 日開催された「キルギス日本語教育 30 周年記念国際研究大会」にウズベキスタンから参加させていただきました。

## ★30 周年に関する講演を聞いて



今回、キルギスで初めての日本語ネイティブ教師である伊藤先生をはじめ、ウズベキスタンや中央アジアで大人気の漢字教材『漢字物語』の執筆者ヴォロビヨワ・ガリーナ先生や基調講演の中川千恵子先生、キルギスの大学や語学センターで活躍している先生方のお話をうかがい、有意義な時間を過ごせました。

皆さんの発表を聞いて、キルギスの 30 年にわたる日本語教育の歩みと日本語教育の広がりが把握できました。さらに、「日本語卒業生」たちが日本語を流暢に話すメッセージビデオを見てキルギスの日本語教育レベルが高いことがわかり、とても感動しました。

「卒業生」それぞれが頑張って学んだ大学の今後一層の発展をお祈りします。

## ★基調講演と参加者の研究発表を通して

22 日に基調講演をしてくださった中川千恵子先生の音声指導に関する具体的な指導方法やご紹介くださった PC プログラムがとても使いやすく、一日も早く教室で使ってみたいと思いました。また東洋大学の平畑奈美先生による中央アジアにおける日本語教育、筑波技術大学大学院生による聴覚障害者の言語意識、カイロ大学の反転授業や日本式教育についての発表とその後の意見交換の時間が一番印象に残りました。

## ★改めてご挨拶を

このたびキルギス国際研究大会の開催に当たって全力を尽くしてくださった実行委員会のみなさん、基調講演の中川先生、発表者の皆様に深く感謝申し上げます。今後ともキルギスの日本語教育と今回実践できた日本語教育の国際ネットワークが更に発展するように、祈っています。

# 貴重な機会を与えてくださって、感謝しています！

マギー・アリ・アブラハディ（カイロ大学）

◆「キルギス日本語教育 30 周年記念国際研究大会」に参加させていただいたことは、私にとってまたとない貴重な経験となりました。エジプト人として初めてこのような機会を与えていただき、光栄です。キルギスについて、そしてキルギス日本語教育界の偉大な業績について知識が得られました。

◆新型コロナウイルスの感染拡大以降、だれもが従来の学習方法や授業のやり方を見直し新しい工夫が必要だと考えるようになり、世界中の多くの日本語教師も、パンデミックにもかかわらず、授業方法において独自の工夫や教授法の向上に力を注いでいます。

◆今回、キルギスの研究大会に参加して、教師も自分自身の経験・知識・試みなどを他の教師と交換し合えば何より大きな成果が得られることがわかりました。今回、このようなチャンスに恵まれて、日本語教育の発展に力を尽くしてこられた先生方の素晴らしい話も聞かせていただき、本当に勉強になりました。



◆お互いの学び・ノウハウ・経験などを交換し、交流したことは、自らの仕事を見直すきっかけになりました。自分自身の向上心を再発見し、また自分の可能性を信じることもできました。

◆貴重な機会が与えられたおかげで、より一層仕事に情熱を注いでもっと頑張りたい気持ちでいっぱいです。

◆改めて、キルギスの日本語教育 30 周年、本当におめでとうございます。キルギス日本語教師会のますますのご発展を心からお祈りします。

◆大きな気づきを与えていただいた皆様と今回、「大会に参加しませんか」と声を掛けてくださったガリーナ先生に、心から感謝申し上げます。

\* \* \* \* \*

# 「キルギス日本語教育 30 周年記念国際研究大会」に参加して

森田誠亮（元カイロ大学 客員講師）

◆2021年8月21日、22日の2日間にわたり行われた「キルギス共和国における日本語教育開始30周年記念国際研究大会」に、エジプト、カイロ大学の客員講師という立場で参加させていただきました。その内容は、これまでの30年間の厚みを感じられる非常に充実したものでした。

◆「キルギス共和国における日本語教育の歩み」では、キルギス共和国日本語教師会創設者の一人でいらっしゃるヴォロビヨフ・ガリーナ先生からこれまでの歴史と現状についてのお話があり、キルギス共和国初のネイティブ日本語教師でいらっしゃる筑波大学の伊藤広宣先生から「キルギスで日本語をおしえることになった経緯」など、より具体的なお話を伺うことができました。

◆伊藤先生の「留学先であるロシアにいたキルギス人との出会いをきっかけに、キルギスで日本語をおしえることにした」というお話は、一つ一つの小さな出会いの大切さを再認識させ、ガリーナ先生のお話は、現在のキルギス共和国における日本語教育が、30年間多くの先生方が日本語教育に真摯に取り組んできた姿勢と情熱の賜物であるということを感じさせてくれました。

◆また、非常に印象的だったのは、キルギス共和国の

日本語教育に縁のある方々の「キルギス共和国との付き合いの長さ」である。「昔働いていた」という理由だけで、これほど長く付き合ったり支援をしたりすることは考えられず、これもまたキルギスの先生方のお人柄と努力の結果なのだと確信しました。

◆私自身、2021年3月にオンラインで行われた「中東・北アフリカ日本語教育シンポジウム」での発表後に、ガリーナ先生にお声掛けいただいて今回発表の機会をいただいたのですが、その用件以外にも世界各地の勉強会の情報を送ってくださるなど個人的にも連絡をくださり、その熱心さに驚くとともにお人柄に魅せられ、気づけば自然とキルギス共和国日本語教師会のホームページを開いていたという経験があります。微力ながら、今回の参加をきっかけに、長くキルギス共和国の日本語教育と関わり、その益々の発展の一助となることができれば幸いです。

◆改めて、キルギスにおける日本語教育30周年を支えてこられた皆さまに、心よりお祝いを述べるとともに、このような素晴らしい機会に発表の機会をくださったガリーナ先生に心より御礼申し上げます。



## 一キルギスにおける日本語教師養成一

西條 結人（四国大学）



◆今回、「キルギス日本語教育30周年記念国際研究大会」という貴重な機会に参加、発表の機会を得て感謝しています。参加された諸先生方のご発表を拝聴し、これまでキルギスの日本語教育に携わってこられた先生方や学習者の方々のつながりの深さや歴史の重みを感じることができました。

◆私自身は2015年から2017年まで高等教育を中心に、JICA 青年海外協力隊員として日本語教育分野での国際協力に携わりました。特に、大学教員に対する教師教育や教材の開発、キルギスから日本を含む世界への日本語での情報発信に重点を置き、同僚の先生方や学生と一緒に取り組んできました。現在は日本の大学で働いていますが、キルギスでの2年間の経験や学びは、教育者として、研究者としての土台になっており、私のかげがえのない財産になっています。

◆大会1日目終了後の交流会では「日本語教師養成」が大きな話題になりました。特に、初等中等教育機関の学習者数が伸びているキルギスでは、今後、初等中等教育段階の質の高い日本語教師の養成が重要になってくると思います。

◆そのためには、高等教育における教師養成プログラムの充実が不可欠です。個人発表でもお話させていただきましたが、ビシケク国立大学東洋国際関係学部の日本語専攻課程の言語学専攻において、外国語教育学分野が設置され、日本語・日本文化教育を専門とする教師の養成が始まりました。数年後には、このプログラムを受けて育った新しい教師が、キルギスの日本語教育界を支え、新しい風を吹かせてくれるかもしれません。キルギスの日本語教育に携わっているひとりとして、今後が非常に楽しみです。

◆キルギス国内では、日本語は、英語やフランス語、ドイツ語、中国語に比べれば、なかなか学習者の実用につながらない「マイナー」な言語かもしれません。教師を目指す人も少ないかもしれません。しかし、そのような中でも「外国語教育を研究したい！」「(日本語)教師になりたい！」と意欲をもって入学してくる学生はいるはずで、その学生たちに対して、教師側は、学生の夢や目標を応援、実現するようなプログラムを企画、整備する必要があると思います。

◆今後の私個人の研究活動としても、ぜひとも教師会の先生方と協働しながら、キルギスの日本語教育界にいい風を吹かせていければと願っています。

# カンボジアからキルギスの研究会に参加して

クーン ソチア（アジア）（国際日本文化学園）

◆直接行くはずだったキルギス訪問がコロナ禍で中止になり、残念に思っていました。この度ガリーナ先生に研究会にお招きいただいたことは言葉で表せないほど嬉しく、ありがたく感じました。



◆発表会の場では世界各地の先生方が熱心に意見を交換され、日本語教育のために最善を尽くしていらっしゃる様子を見ることができました。このことは私を励ます力になりましたので、これからもカンボジアの日本語教育を発信して行ける気がしています。

◆コロナ禍の状況ならではのオンラインで、手間も費用もほとんどかけずに、世界中の先生方が研究会に参加できるような時代になったことにも改めて気が付きました。キルギスから遠いカンボジアから参加できたのも、オンラインのおかげです。

◆けれどもやはり、皆様のお話を伺って、いつかはキルギスをこの目で実際に見たいと思っています。

鬼 一二三（国際日本文化学園）

◆ガリーナ先生には海外日本語教師上級研修以来お付き合いいただき、マレーシアの日本語人フォーラムでご縁をいた



だいた「アジア」という愛称で知られているクーン ソチア講師と共にこの度「コロナ禍中のカンボジアにおけるオンライン授業の実践報告」という発表で「キルギス日本語教育 30 周年記念国際研究大会」に参加させていただきました。

◆世界各国から参加された方々に懐かしい顔が見られ、お蔭様でその後のオンライン同窓会に繋がったり、大学のオンライン講演会にお招き頂いたりご縁が広がり、感謝しております。

◆私共のアンコールワット日本語教師会は 14 周年で、今年 30 周年を迎えられたキルギス日本語教育のやっとなり半分です。大先輩、これからも宜しくお願いいたします。

## 【教師会からのお知らせ】

「キルギス日本語教育 30 周年記念国際研究大会」の  
発表概要とキルギス日本語教育の歴史に関するプレゼンテーション資料は  
発表者の許可をいただいたものだけに限り  
キルギス共和国日本語教師会の HP（ホームページ）に  
10 月下旬公開予定です。

## 【キルギス共和国日本語教師会 2021-22 年度役員と常設委員会担当者】

会 長：アスランベック・クズ・グリザット  
副会長：ジョルブラコワ・マイラム  
事務局代表：ヌスワリエワ・ジルディズ  
出版委員会（紀要編集部）：ジュヌシャリエワ・アセーリ  
広報委員会（会報編集部）：ウシケムピロワ・ナズグーリ  
会 計：副会長が兼務



# 研究大会の報告とお礼

## ～2021年キルギス国際研究大会実行委員より～

実行委員長 アスランベック・クズ・グリザット

■今年2021年はキルギスで日本語教育が始まってちょうど30年です。キルギス共和国日本語教師会は、8月21日と22日の二日間『キルギス日本語教育30周年記念日本語教育国際研究大会』を開催しました。新型コロナウイルス感染防止の観点から毎年8月に開催してきた日本学と日本語教育に関する研究大会としては初めてオンライン形式で実施しました。

■開会にあたり、キルギス共和国日本語教師会会長イシライロワの挨拶に続いて、前田茂樹駐キルギス日本国特命全権大使、根本直幸 JICA キルギス事務所所長、ロシア・CIS 日本語教師会のリュドミラ・ネチャーエワ会長、そして、教師会賛助会高橋知也国際交流基金日本語専門家の方々から祝辞をいただきました。

■大会では、キルギス、日本、ロシア、エジプト、ブラジル、カンボジアから17本の発表があり、参加者は8カ国延べ86人でした。

■大会1日目は、キルギスにおける日本語教育史中心の発表で、日本語学習を契機として日本と日本文化に興味を持ち日本語研究をはじめ、今では様々な分野で活動されているの方々のお話に、キルギスで日本・日本語の魅力が広がっていることを感じました。発表は、ヴォロビヨワ・ガリーナ「キルギスの日本語教育～30年の歩みと人々」、伊藤広宣「キルギスの日本語教育30年に関して」、モルドガジエフ・リスベク「私の日本語教育」、イシライロワ・ジルディズ「キルギス共和国日本語教師会20年の歩み（2019年の氏原名美による発表スライド利用）」、ドゥイショノワ・ナリーザ「キルギス国立総合大学における日本語教育の歴史」、黒岩幸子「日本人からキルギスの先生方中心へ～キルギス日本人材開発センターで見た3年間～」、オモロワ・ディナーラ「中央アジアアメリカ大学における日本語教育」、西條結人「キルギスにおける国際協力としての日本語教育の在り方を考える」と続き、30年にわたるキルギス日本語教育の歴史を振り返ることができました。

■また、キルギスで日本語を学び、現在はキルギスと日本で活躍している「日本語卒業生」9名から30周年を祝うビデオメッセージが届きましたが、一人一人が学生時代日本語を教えてくれた先生に述べる感謝の言葉に誰もが感動したのではないのでしょうか。

■大会の2日目の研究発表と実践報告のテーマは実に様々でした。上甲アリセ民江「日本語学習者と日本語母話者の雑談におけるインターアクションとラポール構築」、平畑奈美「中央アジアでの日本語教育における母語話者と非母語話者の協働を考える：日本語教師養成の視点から」、アクマタリエワ・ジャクシルク「日本語とキルギス語の「V1+V2」型複雑述語についての対照研究」、ミズグリナ・マリア「ロシア語母話話者の聞き取りの特徴と聴解指導における問題点」、クーン ソチア、鬼一三「コロナ禍中のカンボジアにおけるオンライン授業の実践報告」、ボロトベック・クズ・サイカル「聴覚障害のあるキルギス人の手話言語使用状況と言語意識に関する予備的研究」、ジョルブラコワ・マイラム「日本語とキルギス語の男性会話におけるフィルターの機能と役割」、森田誠亮、マギー・アリ・アブデル・ハディー「カイロ大学におけるビデオ教材を用いた反転授業の実践報告」という発表のどれもが大変勉強になりました。どの発表も参加者の関心を集め、質問や意見交換がなされコメントもたくさん寄せられました。

■國學院大學の中川千恵子先生が「学習者の自律を目指した音声指導・学習」と題した基調講演とワークショップをしてくださり、日本語の授業で早速活用したい情報ばかりでした。

■今回祝辞を述べていただきました御来賓はじめ、興味深い発表を聞かせてくださった方々、ビデオメッセージで参加してくださった「日本語卒業生」の皆さん、大会に参加してくださった皆様に感謝申し上げます。そして、大会開催にあたって協力してくださった関係者の皆様、司会を務めてくださった先生方に心からお礼を申し上げます。そして実行委員の皆さん、一緒に日本語教師会の活動に参加できてとても楽しかったです。画面を通して遠いところにいらっしゃる方々にお会いできたのも、とてもうれしいことでした。

■キルギス日本語教育がますます盛んになり、日本と日本語が大好きな学習者が増え、毎年開催される研究大会がキルギスにおける日本研究の発展に大きく寄与することを期待しています。

■皆様、これからもキルギス日本語教師会の活動を応援してください。よろしく願いいたします。

キルギス共和国日本語教師会会報 第 62 号 (2021 年 10 月 5 日発行)

編集：キルギス共和国日本語教師会広報委員会《会報編集部》



キルギス共和国日本語教師会事務局 E-mail: kajlt.jimukyoku@gmail.com

賛助会事務局 E-mail: kyoshikai.sanjokai.jimukyoku@gmail.com

会報バックナンバー [https://www.evernote.com/pub/tm0y/kyrgyz\\_vestnik](https://www.evernote.com/pub/tm0y/kyrgyz_vestnik)

KAJLT HP <http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com>

ウィキペディア <https://ja.wikipedia.org/wiki/キルギス共和国日本語教師会>

Facebook [https://www.facebook.com/JLteachers.association.KR?ref=aymt\\_homepage\\_panel](https://www.facebook.com/JLteachers.association.KR?ref=aymt_homepage_panel)

<http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/バックナンバー/>

**Вестник Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики**

**№ 62 от 05.10.2021 г.**